

にこん 「而今に生きる」

げんしょうじ むらまつこうえい
秋田県 源正寺 村松功英

私達は日々の暮らしの中で様々な出来事に出会います。悲しいこと、苦しいこと、愉快なこと、嬉しいこと、みんな一瞬のうちに時と共に流れ去る出来事の数々、在るときは仕事で、在るときは遊びで、在るときは家庭で、場所も時も様々です。

でもよく考えてみるとそれぞれの事柄と出会った瞬間、瞬間に自分はどのような反応をしているだろうか？嬉しいことに会えば笑い、悲しいことに会えば心を痛め、苦しいことに会えば自ら励まし、怒りには自重を心がけている。大方の人々はそのように過ごすことを常としているが、少数ですが苦しみに負たり、怒りを抑えきれずに軽挙妄動する人が存在することは否めません。これら喜怒哀楽は感情を主体とした心の動きです。お釈迦様はこの世の（大宇宙の）真理を体得し、この悟りを行動の原点とした最初の人です。その体系化されたものが仏教です。

感情とは生命原理から来る心の動きです。美しいものもあれば醜いものもあります。美しい感情の動きを大切に、醜い感情の動きをコントロールしながら生きてゆくことが出来れば無上の幸せと云えるでしょう。このような生き方の出来た人は世の中から人格者と呼ばれる人間となります。

私達はややもすると昨日の失敗を気に病み、明日の仕事の成否を心配する。過ぎ去った昨日を取り戻した人はいません。まだ来ぬ明日を生きることも出来ません。だから、自分でどうにか出来るのは今現在だけなのです。ご本山の数代前の梅田禅師様の書に「而今に生きる」の言葉がありました。まさに今現在の自分を直向きに生きる。細心の注意を払い、全力を尽くして今現在を生きることこそ最善なのです。いたずらに過去を悔やみ、過去から心の借金をしたり、将来に不安を抱き、未来に失望することこそお釈迦様が最も嫌う生き方です。おらかな心で自然と対話し、慈しみの心で生き物を見る、時として悪に出会った時は巡り合わせと腹をくくり、全身全霊で対処する。こんな生き方をしてみても何でしょうか？